

# 生徒指導提要进行

平成23年1月26日 第18号

北海道教育庁学校教育局

参事(生徒指導・学校安全)

平成22年度生徒指導資料

## 第6章 生徒指導の進め方

### 第5節 基本的な生活習慣の確立(生徒指導提要P142～P144)

#### 1 基本的な生活習慣の育成と課題

基本的な生活習慣は、学校・家庭・地域などの生活の場において、大人や他者とのかかわりの中で、発達の段階に応じて身に付けることが大切です。しかし近年、生活習慣の基礎が十分に培われないまま小学校へ入学するために、学校や行政機関などが家庭の役割を担わなければならない状況が生じ、問題行動を引き起こしたり、学習規律や学習意欲・態度に影響を及ぼしたりしています。このような現状に対応するためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を再認識して、責任を持って役割を果たすとともに、連携して取り組むことが重要です。

#### 2 学校・家庭・地域の役割

##### (1) 家庭・地域の役割

教育基本法では、保護者は子どもに対して、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めなければならないことを規定しており、保護者が児童生徒の教育に対する責任を自覚し、愛情を持って育てることが大切です。地域においては、大人が積極的に児童生徒にかかわるなど、地域社会の連帯感が大切であり、地縁的な地域社会の教育力を高めることが必要です。

##### (2) 発達の段階別特徴と学校の役割

乳幼児期は、家庭で十分な愛情を受け、基本的な信頼感を培うとともに、しつけなどを通して、基本的な生活習慣の基礎を身に付ける時期です。乳幼児期の生活習慣は、小学生段階以降の生活習慣とのかかわりが深く、学校における基本的な生活習慣や心の健康などに影響を与えます。学校は以下の点を踏まえ、各段階の特徴に応じた取組を推進することが必要となります。

- 小学生低・中学年は、乳幼児期の延長線上にあり、保護者の影響力が強いため、生活習慣が多様化しにくい傾向にあります。
- 小学生高学年ごろより、保護者から次第に離れる傾向となります。
- 中学生段階以降になると、精神的な自立とともに生活の自己管理が進みます。

#### 3 学校段階別の取組の視点と留意事項

小学生段階においては、日常生活を振り返り、自らの生活を見直す取組の充実が必要です。また、集団生活が始まることから、規則正しい生活や授業規律、他者とのかかわりや集団生活のルールを守るなどの学校生活における基本的な生活習慣の基礎を身に付ける時期です。中学・高校生段階においては、基本的な生活習慣の各要素が不規則になる、あるいは悪化することにより、焦燥感や無気力などの症状を引き起こし、問題行動の発生や学校の活動への意欲等に影響を及ぼすことが明らかになっており、自己効力感を高めることが心理的症状や問題行動等の抑制につながることから、基本的な生活習慣の育成と同時に、自己効力感を高める取組の充実が必要です。

- 学校段階別の特徴を踏まえた取組の視点

	段階	取組の視点
生活習慣	小学生	・家庭生活の影響が大きいことを踏まえ、日常生活を振り返り、見直す取組の充実 ・友だちや家族との対話を通して、生活習慣の課題をつかみ、改善意欲をもつ取組の充実
	中学生	・自らの生活について客観的に見つめ直す機会の充実 ・意見交換を通して、生活の具体的な改善策を考え、実践に努める態度を養う取組の充実
	高校生	・社会的な自立に向けて、自らの生活習慣を自分でつくる力を育成する取組の充実 ・生徒相互の支え合いにより、人間関係を深め、生活習慣の改善を図る取組の充実
自己効力感	全段階	・体験活動などを通して、達成体験や成功体験を積み重ねる取組の充実 ・自己理解、他者理解を通しての人間関係づくりの充実

※生徒指導提要は、平成22年3月に文部科学省から発行され、各学校に配布されています。